

濱田隼雄

社長さんは廻診の時、一時間だけと醫長さんにさが
んで、何處かへ行つたが二
時間ばかりしてから、にと
／＼顔で歸つて來た。はし
／＼頭をえてゐる。この
人はやはり肺が悪いのだが
少しも病人らしくないとい
ふが妙だ。世間の役に立つ
といふものではないにしま
う、とにかく自分の仕事に
目標のあることは、いふこ
とではない。知つてゐても
と診てゐるのかと知れぬ
。あたしは又一今年一杯
かちませんと云ひしか
たけれど、さう云つたど
うな雨を運ぶ寒い日。今日
は醫長さんの病診。いつと
も退院できるか聞いてみ
なくては、月末だといふが
醫者なんて、のん／＼もん
／＼病氣が治ると共、懐
かすつてしまふことを
がへない。知つてゐても

鮎川 桂

ちで退院するだけのことで、ひそかにめをきめる。父さんにお店から借りた

いろいろ——葩が散り、一雨毎に季節の色彩が變

鮎川 桂介

置きたい

から、恩に着せられると
ふとぞつとする。休んで
るにお給料を拂つてゐ
こふだけで大したこ
やがて――葉も落つ虫が

2
.
1
(
f

愛憎だ。病氣をしてから
食物にでも顧るやうにして
るお母さん。お金のこど
なすと、機嫌の悪い人だ
ら、あたしが眼の前にお
る私であつた

△眞田幸村戦死す

△スパイ

れも、あつしに當ててく
ばまたしも、お父さん
ばかり當るのをみとみな
一四

る(明治八)△スペイン國
際聯盟脱退を通告(昭和

木村芳山

○土のままなる竹の子を壁に二つに切りばらりと皮をはぐはところよし
○をさな兒のうぶ毛のごとく滑りたる竹の子の皮は捨つるに惜しき
○あしたより肌衣のありをたためつつ戦地の人にする思ひあり（事變一週年のころに）
○夕空に雲の動きもしづまりぬ隨風はとほく去り
　　ゆけとらし
○電車下りてしばしつづき　人足の右にそれ左に
　　われのみとなりぬ

行は必ず人に先んじ

大戴

夜嵐招

〔60〕
悟道軒圖
筒井直衛
封じ銀

大層おこい串ネ」

藥地まで用事があつて
りだ——
う、さアお入な
何だか今夜は冷わ

終は和歌吉と共に居る

葬は和歌吉と共に居る。
まだ火はあります、

猿若町の杵屋の姐さん

猿若町の杵屋の姐さん
とろへ手傳ひに行きま
す。

ツムさるか、折り

「ウームさうか、折り入
屋へ行くやうだな」
それはわねさんが日本
大工町で藝奴に出てゐ
岡母さんが知つてゐる

が、今度お暇になり

たが、今度お暇になり、又猿君町から出、

ソムさうか、時に和啓

それでは頂いておきます。二十五兩ある」

歌吉はそれを見て、
「あれへ出したのは反古で封
金。」と云つて、
「返しておくゝあさは一顧
に持つてくる。」



原京一 寄五十六番

「年内に借金を返して一刻と云はれてハツトと胸をぞ
も早く藝人の足を洗へ、まづ酒开
た俺が金が出れば近江屋の
厄介になるにも及ぶまい
アノ老婦とは縁を切れ、そしたの……」
れども年寄は親切だから思
ひ切る事は出来ぬかな」
「いやです、そんな事云
つては今までも近江屋の旦那さへ引抜いて斬つたがそれ
のお世話になつてしまふまで血が溢れたものであらう
したが、貴下がお金を出し
て下さつたので旦那とはキ
ツバリ手を切ります」
「さうするが宜しい、オゝ寒
い、酒はあるか」
「ありますよ」
「途中で飲んだが、此の寒
さでスツカリ醒めてしまつ
て下さつたので旦那とはキ
ツバリ手を切ります」
「さうするが宜しい、オゝ寒
い、酒はあるか」
「ありますよ」
「途中で飲んだが、此の寒
さでスツカリ醒めてしまつ

着てゐるわ」

「ウム血が着いてゐたか」
「氣味が悪いねこれはどこで洗つたのか」
「それは何んだ、濱町川岸
の細川の上邸前まで來ることだ」
犬が飛び出して吠へつゝ
つて今までも近江屋の旦那さへ引抜いて斬つたがそれ
のお世話になつてしまふまで血が溢れたものであらう
したが、貴下がお金を出し
て下さつたので旦那とはキ
ツバリ手を切ります」
「さうするが宜しい、オゝ寒
い、酒はあるか」
「ありますよ」
「途中で飲んだが、此の寒
さでスツカリ醒めてしまつ

酒井はそのまゝ當座に泊り翌朝屋敷にもどつた酒井
が濱町河岸で人を殺した其
の日は年末の廿九日一日すつ

に、イヤ着は要らねわ海苔でも焼け」

茲で和歌吉が焼海苔で一と銚子ついで出す、それを此の家の表に佇み様子を窺つて居たは駒止のおでんやから尾行して來た若者

「斯んな所に巢があつたの」と云ひつゝ立ち去つた、そんな事とは知らぬ酒井豊之助は和歌吉の酔ふ酒に親しんでゐたが寝亂れ姿の和歌吉が今夜は一層に婀娜に見わる、

スルト和歌吉が、

「酒井さん、袴を脱ぎなさい」

「窮竈袋を取るかな」

出越平が萬筋の馬乗ら袴を脱いで、それを和歌吉にたゞむでわたか、

酒井さん、この裾に血が

さて大師の事であつたが日の暮に和歌吉は酒井から受取つた二十五兩の封じ銀を見てゐる所へ表から入つて來たのは向院前に居る武蔵屋文吉と云ふ南北町奉行の御用聞さ、

「和歌吉さん、何うしたなさいぞいそがしいたらう」

「オヤ貴殿屋の親分、に上なさい」

「今日は寒いのかオオ和歌吉さん、お前などは年末の苦し事は知らぬわ、本町の旦那とお旗本の殿様を兩手に握つてゐるんだ、金に不自由なぞはなからうな」と云ひつゝ和歌吉の膝下にあつた封じ銀に目を落した

御用聞の快調な品

書 高島屋洋服店

平一電二六六

皮膚泌尿器科
性病科
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎
電話 六九一
入院隨意

開業廣告

先般平市五丁目額賀醫院にて治療致して居ました**點送電氣治療所**が四月二十三日より左記の場所に開業致しました

◎**病名不明の病者**は御出下さい。點送電療にて**判明**致します

◎電療の特長は特にリウマチス、神經痛、胃腸病、其他

(但し開業披露ノ爲ニ二十三日ヨリ二十九日マデハ治療代半額頂キマス)

平市田町十九番地(末廣向ヒ)

菜花電療院

硝子類一式實用價販賣
菓子壘、美術食器
板ガラス、陳列ケース 各種

平市一丁目

●窓硝子スビート修理致しませう

薄ガラス店

生花教授
池ノ坊
生花を親切丁寧に御教授いたし
ます、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅館

須藤まつ子

